明石の史跡（４７）谷八木川

先日（平成１５年７月２７日）の神戸新聞明石版（朝刊）において、「国内河川のワースト５圏内の〃常連〃だった谷八木川の水質が、二〇〇二年度の年間調査で、環境基準を二年連続で達成したことが、市が二十六日までにまとめた環境調査報告でわかった」という朗報が掲載されていた。

これまで注目をあつめてきた谷八木川ではあるけれども、実は、４００年前の三木合戦当時にも、その存在が歴史的にも重要な意味を持っていた。『明石市史下』に収載された各寺院の由緒を見るに、その所在地（市内）が谷八木川の東と西では、まったく対照的である。以下、個別寺院について抄略してみよう。

月照寺（人丸町----羽柴秀吉が三木城主別所長治を攻める時、秀吉は人丸塚に詣でて軍利を安室に祈らせた。三木落城の後、天正九年高三十石の社領を寄付）

十輪寺（西新町----豊臣秀吉が三木城攻撃のとき、戦勝を祈念したと伝えられ）

西光寺（大久保町西脇----天正年中羽柴秀吉が三木別所氏を攻撃中兵火によって焼亡）

来迎寺（大久保町八木----天正年中三木合戦のとき、羽柴秀吉の兵火にかかり本尊は大般若経の中にかくされて難をさけられた）

遍照寺（魚住町長坂寺----天正七年九月三木合戦のとき再び兵火のために焼かれ）

金輪寺（天正虚乱に再び炎上）

あくまでも「由緒」（伝えて来た事由＝広辞苑）であるとはいえ、谷八木川の西部（魚住氏支配）は秀吉の兵火にかかつたことが主張され、逆に東部（明石氏支配）では、秀吉の恩恵に浴している。両者の相違点は、魚住氏は三木に入城し、明石氏は小寺（黒田）孝高と従兄弟の関係から、秀吉陣営に参加したことによるものであるといえよう。

谷八木川

日本歴史学会会員 茨木 一成